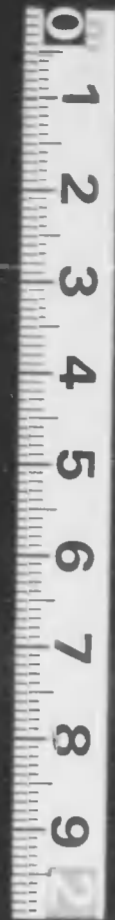


寫眞週報

情報局編輯
二十二月三日第二十五號



2



天皇陛下
神宮に御参拜
戦勝を御祈願
遊ばさる

御寫眞は
天皇陛下内宮を退下遊ばさる

謹寫 宮内省

畏き叡慮にこたへ奉らん

長くも 天皇陛下におかされては、十二月十二日、皇座を九重の雲深きあたりより遷す伊勢神路山の麓に進めさせられ、神代の昔より、わが皇統と國土を護らせ給ふ皇祖の神靈に、御親ら國難打開を御祈念あらせられました。

この尤びの大戦に寄せさせ給ふ御懇念のほど、たゞ、恐慄感泣のほかはありません。

想ひ起す昨年十二月八日、皇國未曾有の一大事に露降る寒夜も御慶あらせられず、つひに聖斷を下し給ひ、宣戦の大詔渙發あらせられてよりこゝに一星霜、この間長くも 陛下には日夜宸慮を極ませられ給ひ、開戦翌九日は宮中三殿に宣戦を御報告、十一月二日の明治神宮御拜に際しても聖業の目的達成を御祈念あらせられましたか、毎月一日の御旬祭には祭服を召させられて親しく實所大前に額づかせられ給ひ、大御心をこめさせられて、ひたすらに國難打開を御祈念遊ばされましたが、この尤び開戦二年を迎へさせられるに當り、わが國開戦以來のこの難局に際し赫々たる戦果を御報告あらせられ、敵國降伏にこの上の神明の御加護を祈らせ給はんとする畏き思召より、御親ら天つ神國の社に御西下遊ばされたのでした。

國難に際して勅使を神宮に祈らしめ給うた御例は拜するも、戦争のさなかに御躬ら神宮に御参拜あらせられたことは有史以來全く初めての御事であり、この勿體なき聖慮を拜察してわれら一億者みて眞實のまことの足らざるを懼るばかりです。いまにしてわれ／＼のなかに萬に一人、なほ戦争完遂の要請に責え切らぬ態度を示し、個人生活の残滓を清算し切れない者がありとすれば、その罪やまさしく萬死に値するものといはなげ

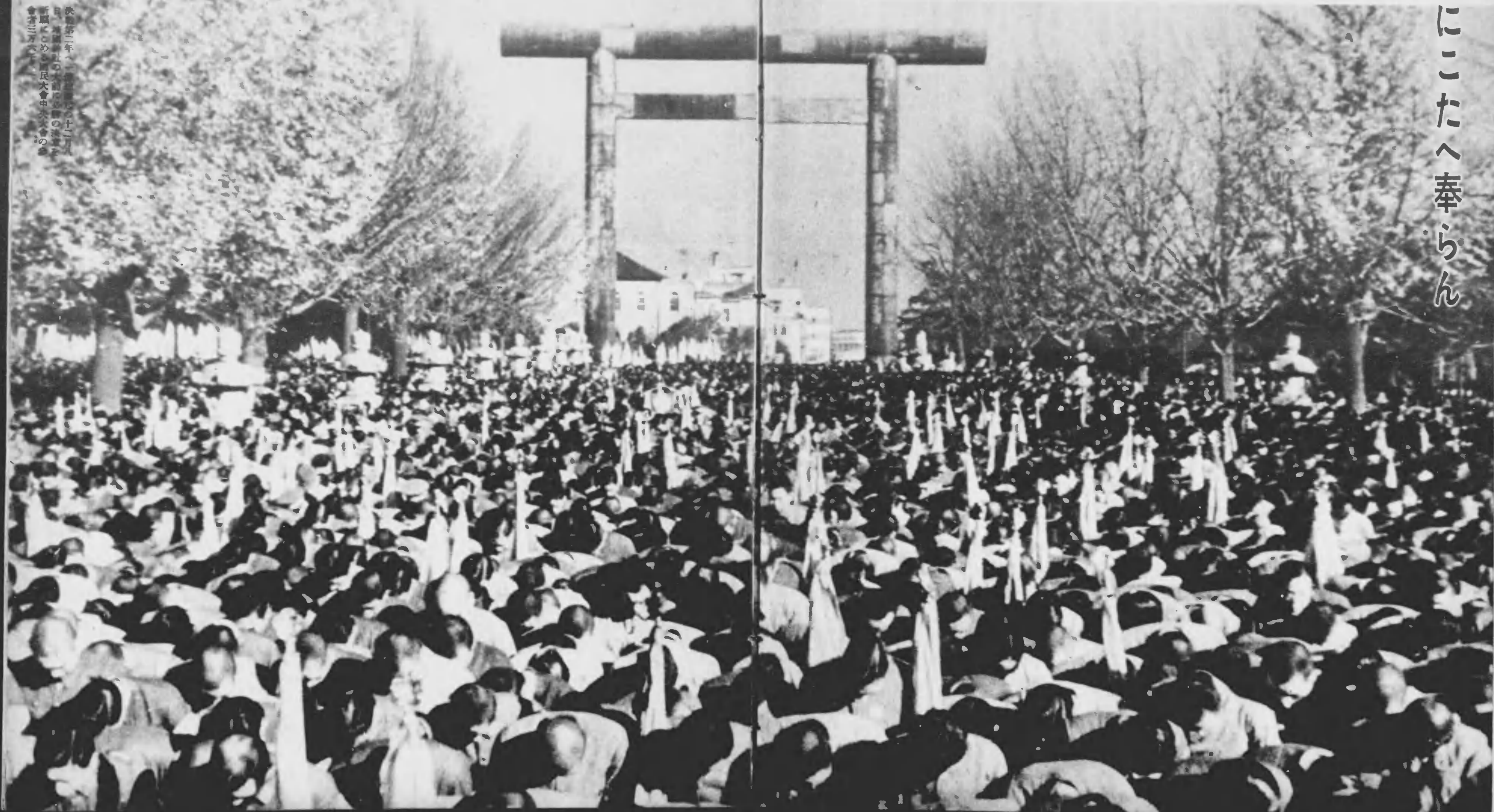
戦ひはいまや打續く戦から立直つて不運にもこの神國を地球上より抹殺せんと企てる敵の建反抗と、あくまでこれを撃破し、屈辱せしめんとするわれとの一大決戦の段階に入りました。まさに皇國存亡の關頭立つ血みどろの戦ひです。

想へ、神國の權威を畏ひ、メキシコのやうに、ウルグアイのやうに、米國の奴隷となつてなほ國をなしてゆくことが、われら民族の血と魂をもつてして忍び得るや否やを。まこと今日において敵を撃滅し、皇座を安んじ奉らなければ、高千穂の峰より高き皇恩に酬い奉るわが臣道は死ぬるのです。今日において敵の不逞なる非望を打ち砕き、皇國を泰山の安きにおくことができなければ、悠久三千年の光輝ある歴史をうけ継ぐわが民族は滅びるのです。

申すまでもなく此度の戦は、御詔勅に示し給うたごとく、皇國の權威と存立のために決然起つた已むに已まれぬ血戦であり、同時に神勅に宣はせ給ふ八紘爲宇の大理想を世界に顯現せんとする聖戦です。道義すでにわれに在り、斷じて敗れざるは一億國民の確信でなければなりません。

いまや 大君の御いさご性りを畏みつつしむわが陸海の精銳は、北に南に、鬼神も避く屍山血河をふみこえて、憎むべき米英を誅滅しつゝけておます。銃後のわれらにして『あの日』十二月八日の感涙を肝に銘じ、前線に劣らぬ決意をもつて、食糧を生み、兵器を造り、戦費を貯へ、空の護りを固めてゆくならば、勝利は斷じてわれらのものです。神この國を創り、神この民を治しめし給ふ神州日本、必ずや神明もわれらの至誠を照覽し給ふにちがひありません。

いまぞ一億、命すべてを 上御一人に捧げまつつて、この大御代に『み民われ生ける魂あり』と腹の底から叫ばうではありませんか。



決戦翌二年へ、皇座遷すの十二月八日、明治神宮に御参拜の御儀を祈願にこめ奉る民大會中央大會の會場三万六千。



田秋

この朝秋田市通商神社には戦後を祈る市民が幾天を備えて参拜、大鳥居前の貯蓄取扱所に必ず寄つて彈丸切手を求めた。撮影 秋田新聞社



山岡

國民の意氣と赤旗を揮ふ山岡縣國民大會は八月岡山市奥市に開かれた。撮影 合同新聞社



本熊

一周年記念行事の一つとして都市防衛演習が行はれ、女子青年團も鎧姿を持ち、装具に身を固めて活躍した。撮影 入江泰吉



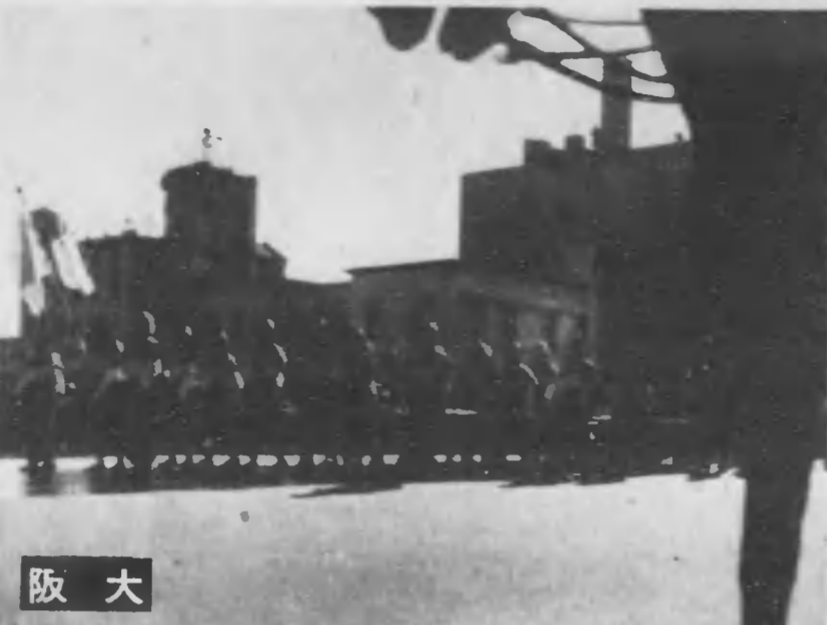
灣臺

午前十一時五十九分、この臺北市の街頭もビタリと輝かしい海と空の戦果に少年の胸一杯の感謝をこめて八月熊本市止して、内地人も敬愛な祝慶を捧げた。海軍人事務を訪ねた國民學校の生徒たち。撮影 西日本新聞社



道海北

米英撃滅、戦力増強を旗印に北海道國民大會は八日札幌で開催され、大会後空々市中行進に移つた。撮影 北海道新聞社



阪大



屋古名



賀佐

市實業壯年團は六日戦機精神昂揚大會を金峯城下に開催、敵撃滅の意氣を高めた。撮影 古海敏一



太樺

眼も開けられぬ猛吹雪を衝いて樺太神社に参拜、戦後を祈願する豊原高等女學校生徒。撮影 高橋盛一

十二月八日、大東亞戦争一周年を迎へて大和民族の血潮波打つ者は一人残らず街に村に、あの日を想ひ今日の目を思つて戦後を神に祈り、敵米英討たては止め決意を固めた。さあ二年目も勝ち抜かう

戦後二年目の決戦

の年周一争戦亞東大

大東亞戰爭一箇年の戦果

海軍										陸軍										
果戦合給るよに表發本大のてま日七月二十來以戦開										始開争東大(時四後午日七)表發本大以										
果戦合給るよに表發本大のてま日七月二十來以戦開										始開争東大(時四後午日七)表發本大以										
飛行機	特設艦船	その他	潜水艦	水雷艦	特設艦船	その他	潜水艦	水雷艦	特設艦船	その他	潜水艦	水雷艦	特設艦船	その他	潜水艦	水雷艦	特設艦船	その他	潜水艦	水雷艦
...

東南島群ンモロン日五十月十
沈撃の艦敵るけおに面海
に撃雷がわの殺必中必



隊部空航軍海 影撮 後最のトッナーホ母空敵るけおに戦海洋平太南



隊部空航軍海 影撮 後最のトッナーホ母空敵るけおに戦海洋平太南

一、南方及びアリューシャン方面
 (イ) 交戦兵力 約六十万
 (ロ) 遺棄死體 約五万一千
 (ハ) 俘虜 約三十万三千
 (ニ) 鹵獲品 三、六二〇門
 各種火砲 一、一三〇挺
 重機 二〇六、〇〇挺
 其他兵器 一、四四〇挺
 戦車 三、七〇〇輛
 自動車 一、二〇〇輛
 鐵道車輛 七三二機

二、支那方面
 (イ) 交戦兵力 約三百六十万
 (ロ) 交戦回数 約二万五千回
 (ハ) 遺棄死體 約二十八万
 (ニ) 俘虜 約十二万三千
 (ホ) 鹵獲品 八四六門
 各種火砲 三、二〇〇挺

三、我方の損害
 其他兵器 一五九、〇〇挺
 自動車 二二九輛
 鐵道車輛 二〇八輛
 鹵獲及び擊破破飛行機 一一八機

大東亞戰爭日記誌
 十一月
 三十日 夜間、帝國水雷艦隊はガダルカナル島ルンガ沖の敵有力部隊に對し襲撃を敢行せり。その戦果戦艦一隻撃沈、オীগスタ型巡洋艦一隻撃沈、驅逐艦二隻撃沈、驅逐艦二隻火災。我方の損害、驅逐艦一、ガスタ型呼稱

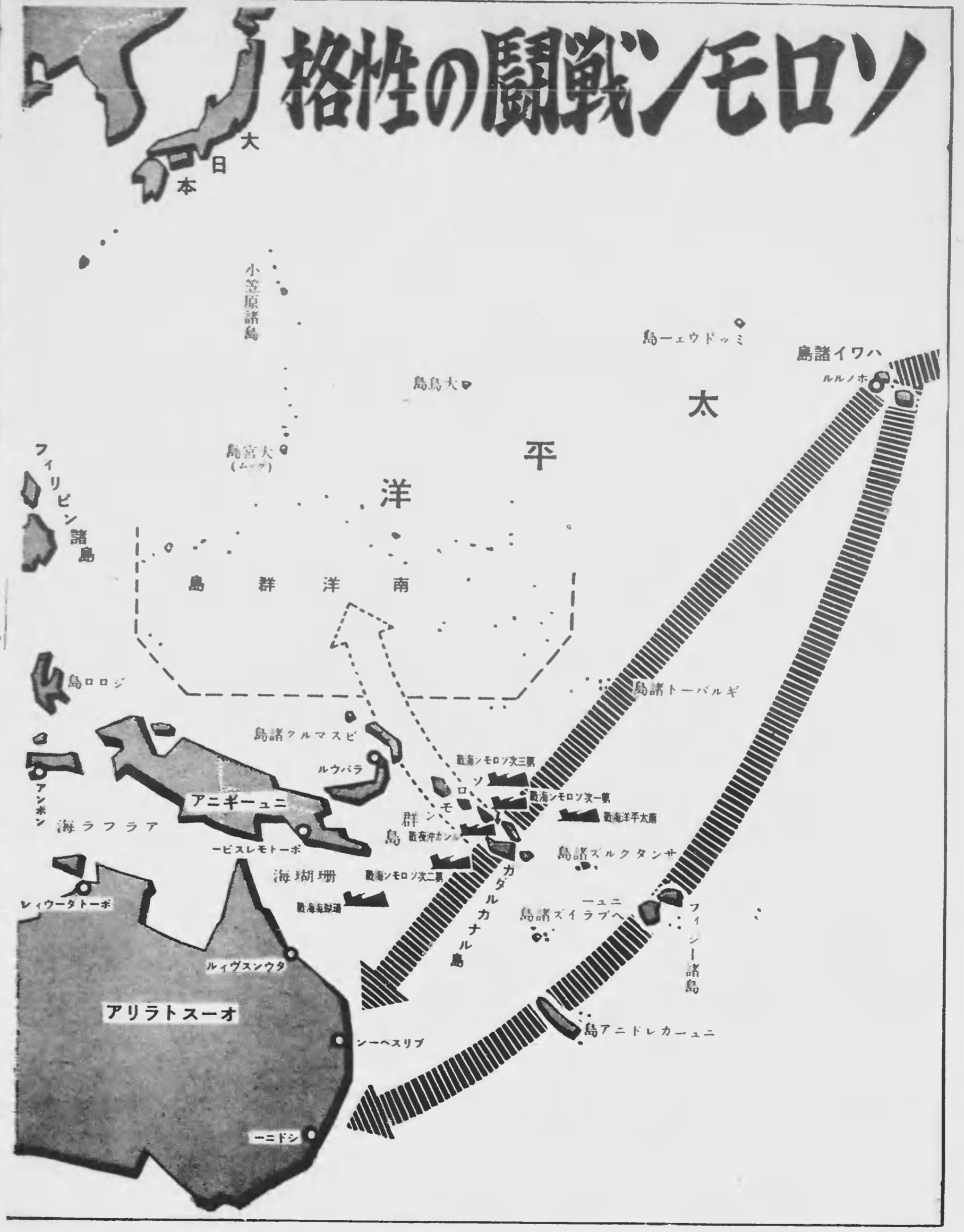
右頁上 逃げ惑ふ敵艦はわが海軍航空部隊の必殺雷撃に仕止められた。深々たる黒煙に包まれ大傾斜した敵艦は間もなく猛烈な爆発を起し沈没したのであつた。死闘はソロモン海域、十月十五日のわが戦果の一瞥である

右頁下 十月二十六日、サンタクルーズ諸島北方洋上、すでにわが猛攻に航行不能に陥つた敵空母ホーネットを襲つて七隻の敵直撃艦が急速で周回しつゝ、わが雷撃を續けてゐる。やがてこのホーネットはわが艦隊の手に落ち捕獲現航の途中處分し去られた

二日 比島方面帝國陸軍部隊は先に全群島を攻略したる後、なほ僻處不便の山地等に據り蠢動しありし米比敗殘兵に對し引續き討伐を行ひつゝありしが、既にその大部分を剿滅せり。去る八月以降十月に至る三箇月間の綜合戦果中、主なるもの

(一) 敵の遺棄死體三千九百四十五 (二) 俘虜二千九百十八 (三) 鹵獲品、機關銃三十三挺、重機七十一挺、自動小銃百五挺、その他銃器七千四百五十八挺、各種彈藥約百万發、自動車四十四臺

ソロモンの戦いの性格



過ぐる一ヶ月の戦争はわが軍の勝利をもつて終結した。だがアメリカも緒戦の惨敗から漸く立ち直つた

『真珠湾を覚えてゐる』の合言葉は、真珠湾の真相を暴露した米當局の巧妙な宣傳によつて、さらに裏付けされ、全米の対日抗議意識を煽つてゐる。そして、さらにその莫大な資力と資材に物いはせた全米兵器廠の生産力は、こゝ一兩年が頂點に達し、これによつて一舉にアメリカの布陣を守勢より攻勢に轉じようとしてゐるのだ。北アフリカにおける新戦線の結成と、ソロモン群島方面へのかつてない大規模の積極作戦が、いはゆる攻勢への端緒として全米の戦意を昂揚してゐるわけだ

わが南方作戦によつて東亞に據拠を失つたアメリカは、まづアラスカ公路の開通による熱川、鳴神兩島の奪還および北方よりわが本土攻撃、ハワイ、ミッドウェーを基地として、航空母艦を中心とするわが本土空襲、米本土、ハワイ、フィジー諸島、ニューカレドニア及びハワイ、ソロモン群島、ニューギニア、濠洲を結ぶ米海運線路の確保、インドよりするビルマ奪還、支那大陸非占領地域からのわが本土空襲、内地と南方諸地域との交通路破壊などをもちつて、日本の包圍態勢を憂へようとしてゐる。このうち、敵最大の戦略的據拠がソロモン群島方面であることは、現在もなほ、ガダルカナル島に行はれてゐる日米兩陸海軍部隊の死闘、及びついに戦艦を交へて交戦するに至つた數度にわたる海空の決戦に徴しても了解できる

アメリカがこの據拠を失へば、米海運線路は遮断され、濠洲の孤立はもとより、太平洋戦局におけるアメリカの戦略的態勢は根柢から動搖させられる。だが反対に、こ

れが敵の掌中となれば、濠洲への補給を充實して、こゝを基地としてジャワ、フィリピンへの進攻はもとより、わが南方諸地域の擁護、南洋群島に対する攻撃、ひいてはわが本土へまで對日總反攻の舉に出るんとしてゐるといふことは、あながち誇大宣傳とばかりはいへまい。敵は既に乾坤一擲の大決戦に出でんと再三再四われに挑み、それまたこれを撃つに陸海空の精銳をもつて、その都度これをたゞまきつてきてゐる

八月七日の『第一次ソロモン海戦』以來、十一月三十日の『ルンカ沖夜戦』に至る約四ヶ月の間と同方面において戦艦四隻、航空母艦八隻ほか、各種艦艇、輸送船を合して百二十五隻を撃沈破壊、飛行機八百五十機以上を撃破されてゐるにもかかはらず、なほわが海軍に反抗の手をゆるぎない敵の戦意と戦力には、まことに侮り難いものがある。同時に、敵がいかにこの方面を重要視してゐるかが理解されよう

大東亞戦争の遂行が決して生優しいものではなく『喰ふか、喰はれるか』生か死か』の決戦の連続であることはいふまでもない。ソロモンの勝敗は、太平洋全戦局の前途を決定的なものとする一方、その勝利は敵アメリカをたゞきつづき有力な導因となると同時に、その敗北はその逆の意味する。しかも、ガダルカナル島の惨憺な激戦は、今日も、たつた今も、わが將兵の血潮に血ぬられつゝ續行されてゐるのだ。敵は兵力においてもわれに數倍し、最新の機械化装備を完全に整へてゐるといはれてゐる。わが方は敵の制空權下を敢然と海上輸送、敵前上陸を敢行し、その補給は、この

ほどの谷嶽大本營陸軍報道部長の言によれば『我が軍が過去幾多の戦役、事變において経験したことなき極めて困難な状況』

である。しかもなほ『わが陸海軍は眞に一體となり兵器、彈藥、糧食』の缺乏言語に絶する中に地上、寸を刻む前進を續けてゐるのだ。さらに同島の補給をめぐつて、附近海域における數次にわたる海戦では、わが大戦果の除にわが方の損害も少くなかつた。殊に第三次ソロモン海戦におけるわが戦艦が阿修羅の奮戦の果て、敵百數十機の爆撃に満身創痍となるも、出で来る敵艦洋艦に止めて一弾を酬いて完膚と果てた、あの壯絶さには約くやうな敵艦心の盛りあがるのを感じないものがあつたらうか

一方、ソロモンの戦局において見逃すことの出来ない意義は、制海權の確保に先立つ制空權の血みどろの争奪戦である。敵はこの方面に有力な陸上航空基地を確保してゐるに反し、わが方ははるかに〇〇キロの遠隔の基地から飛び立たねばならない。しかもなほ、わが海軍航空部隊は、この戦況の惡條件にもかかわらず敵艦艇の必殺へ、或ひは敵航空基地に對してもすでに百數十回の反復攻撃を敢行、熾烈な航空殲滅戦を展開してゐる。だが敵は一夜明ければ次ぎから次ぎへと豊富な航空兵力を補給してゐるのだ。まことに制空權の確保こそ近代戦最大の必須條件といへよう

陸に、海に、空に、たゞひたすらに大君と祖國のため、全身全霊をもち込んでソロモンの天地に死闘を續けかへす陸海將兵を想ふとき、八日の感激をわが肉とし、骨とした一億の底力をもつて、さらに新らしい戦争遂行力を物にも心にも最強度に培つてゆかなければ、この戦ひを勝ち抜くことは斷じて出来ない

敵アメリカがソロモンの決戦場において唯一の力としてゐるのは航空機、輸送船の、あらゆる兵器の、生産力の優越による

對日攻勢ではないか。このほどの平出大佐の放送にもあつた通り、敵の『生産力が現在、作戰の要求に、相當程度即應しつゝある事實は決して輕視を許されない』と述べてゐるのは、正しくこのことを指摘してゐる。近代戦が消耗を伴ふ長期戦であれば、『生産の戰場が直ちに戦場になつてゐるとも、『もし生産に遺憾の點ありとすれば、それは直ちに作戰に至大の影響をもたらす』ことも、われ／＼は深く知つてゐる。もろんアメリカの誇大な生産力を恐れることではない。戦争は物の力のみでは勝てないからである。だがそれと同時に精神力のみでも勝利を獲得することは出来ないのだ。機も人も百戦錬磨の海軍であつても、次

ぎから次ぎと現はれる敵艦の前に遂に刀折れ、矢盡きることあらう。敵制空權下に『兵器、彈藥、糧食の缺乏言語に絶する中に地上、寸を刻む前進』をしてゐるわが陸海將兵の鬼神も哭く戦ひは、ひたすらに祖國を護り抜かんとする死生一如の闘魂のさけびではないか。もし、かりに十分な兵器と、彈藥と、糧食を第一線に送ることが出来なかつたとすれば、その責任は正しく銃後のわれ／＼にある。今日、銃後も第一線である所以のものは、一つにこゝにあるのだ

われ／＼の今日を闘ひ抜く心は、敵弾下に寸を刻む前進をしてゐる將兵と、かけはなれてはならない。かけはなれては日米決戦には勝てない

戦場の心を心となかつたら、勝利の道ははるかに遠い

『最良の兵器を最大限に生産だ』開戦二年を迎へるわが生産陣營の合言葉はこれだ。一よく二をばふり、三を撃破する戦争の徹底的な生産、第一線將兵への最大の贈物はこれだ

敵機は必ず来る

陸 海に空に、戦いはいまや決戦の連続である。この決戦場たるや北のアリューシャンに、南のソロモン海域に、支那大陸に、或は何時また東京、大阪が決戦場とならないと誰が保証し得るであらうか。近代戦における航空機の発達は、何時いかなる場所を決戦場にすることは全く豫測を許さない。

わが本土空襲といふことは敵米國が頻りに呼號してゐること、去る四月の敵襲は見事これを撃退したが、今後の空襲は敵側が準備をきく／＼意図しない態勢をとつてきてゐるために、恐らくこんな生やさしいものではない筈である。米國がしきりに叫ぶ對日總反抗態勢を検討してみれば、その邊の空襲は自ら判明することである。それは海から来る航空母艦によるわが本土空襲といふことも考へられるし、陸上基地としてのハワイは東京から僅か三千四百キロで爆撃圈内にあり、北のグッチャハーバーにしても二千六百キロといふ直ぐお隣りである。さらにまた支那大陸の非占領地を足場とする空襲路も當然考慮されねばならない。さうしてみると海陸からする敵のわが本土空襲は必然といつても過言ではない。

しかし、このやうに空襲の危険が増大したからといって、わが國の戦力が弱まったからだとか、軍が弱くなつたからといふことではちろんなく、これは全く近代戦における本質ともいふべき航空機の発達によるものである。こゝでわれ／＼は空襲の避け得られないことを深く深く認識するとともに萬全不敗の態勢をとらう。

大敵に挺身したつが濡れの防空騎士の前には焼夷弾などなる英火柱にしか見えぬ。濡れた道ともにも身を火柱に投げかける。(大阪市成小路國民學校)



パケツ水を馬鹿にしてはいけない。四月十八日の敵襲にも大きな威力を發揮した。次ぎから次ぎへと敵勢よく放水しよう。(東中市品川區大井町第九町會第二部十一群)



焼夷弾落下！警戒班の叫びと共に待機してゐた防火係班は、すはと飛び出し、先づ身置も運と共にザンブと水槽に飛込んだ。何んといふけなげにも真剣なことだらうか。(大阪市成小路國民學校)

空襲に際しては慘禍を豫想して悲觀したり、あわててはならない。しつかと肚を据えて、飽くまでも落ちついて、平常からの用意周到な準備と、かねて腕に覚えのある訓練に物いはせて、敢然と防空に挺身し、つまらない流言に惑はされることなく、秩序整然と國民生活の平靜を護らなければならぬ。ロンドンにせよ、ベルリンにせよ、あれだけの空襲を受けながら、いづれも『参つた』と平常の訓練があつてこそ防空の必勝體は成る。なかに！いざといふときにはやるさ！こんな言葉はとんでもない話だ。猛訓練に猛訓練を回す。(東中市品川區大井町第九町會第二部十一群)

いふ言はあけてゐない。そればかりか、いづれも究極においては『必ず勝つ』と自負し、黙々と戦争遂行の任務を完うしてゐる。東京にしても、あの震災であれだけやられても立派に立ち直つた。われ／＼は必勝の信念をもつて、如何なる攻撃にもひるまず、敢然と、大君のために身を投げ出し、莞爾として防空の責めに任じよう。





安福系議員議員は滞貨一掃の奉仕に出勤し、養壯年團員を泊留驛頭で激働した



奉仕隊

の滞貨一掃

東京

二、三にも滞貨品の山がある。——すまぬといふにはおこりませんか。軍用品を生み出す動力源は石炭だ。石炭を運ぶのは、地方から上京した野郎のおお汗をか



重いカマスを肩に何々さんほど大學生よご苦勞

しかし旅客輸送については、日本は外国に比べてまだ、餘裕がある方です。ドイツの如きは開戦直後、直ちに旅客列車を相次減らし、「すべての車は勝利のために」のローガン掲げて、全輸送力は、挙げて戦争資材の輸送に振り向けてゐます。また、敵国アメリカにしても「休暇は家庭に」と不急不要の旅行を抑制してゐる状態です。かうした點だけを戦争に結びつけて考へてみますと、われわれが一包みの不急不要品を、一回の旅行を廢めるといふ回数が多ければ多いほど、それだけ石炭なり、鉄鋼やコークスといふ戦時重要物資を輸送することができるので、端的にいへば「戦いに勝つ」といふことがいへます。

勝つためには、われわれはどんな協力もしなければなりません。贈答品の託送や不急不要の旅行は、断然廢めさせよう。

ここに紹介したグラフは、東京における各群の滞貨一掃の努力奉仕に出勤した養壯年團員や、商業報國會員および大學生、中學生の敢闘ぶりです。これらの滞貨の中には、戦時重要物資の石炭や、日常生活必需品の醤油や味噌もありますが、皆さんが送った贈答品もあるのです。不用意に送つたもの、虚禮で贈つた品物は、戦時重要物資の輸送を阻むばかりでなく、かうした人達の肩をも傷つけることとなります。やめさせよう！

贈答品や、不急不要品の託送や、旅行は廢めようといふ鐵道のわれわれへの呼びかけは、身にたこの出るほど聞かされてゐることにす。しかしながら、依然として託送品や旅行者は減つてはゐませんが、勿論、これらの品や、人のなかには、都會に出てゐる子供が野菜がないと言つてきたからといふ温かい親心のものや、年配いた親への孝養からの、名所信託旅行とかいふものもあるでせう。まことに情においては忍びないことなのですが、日本はいま、喰ふか喰はれるかの戦ひをしてゐるのです。戦争に勝つためには、何はさて置いても、鐵道は軍用品の輸送を第一としなければなりません。事實、鐵道の輸送量は戦前の二倍に達してゐます。いや、二倍どころか、最近、戦時陸運非常時體制が實施され、今までの海運によつてゐた物資を陸運、つまり、鐵道輸送に移したので、その輸送量を加へれば三倍にも四倍にも増してしまつた。かうなつてくると、鐵道としても、その輸送能力には自ら限度があるので、相當思ひ切つた輸送の根本的な整理が當然必要となつてきます。鐵道省がこの年末年始の多客期に備へた「一等車、展望車の連結停止や、二等寝車や食堂車の連結停止、特別急行列車の座席指定廢止」などの旅行調整策も、この一つの現れです。

中學生が一つ／＼運搬する滞貨の中には、お茶や味噌、お豆腐など、お土産と同じく、食料品も多々ある



⇒ 滞油だ。費油だ。お正目を控へて、早く市民へ配給しよう。要の奉仕員

一月常會



新らしい年を迎へて、敵撃滅の決意も自らまた新たに固いものが湧き湧き上つてくるのを禁じ得ないものがあります。そこで年頭この常會でも、まづ

「必勝の誓」を致しませう

誓

大東亞戦争二度目の新年です。勝負はまさにこれからです。戦ふ皇軍に事缺かせぬやう、あくまで生産を増強し、勝つて、勝ち抜いて敵を降参させませう

国内も戦場です。すべてが戦争生活です

誓つて、すめらみたみの限りなき戦力を發揮いたします

新調、新規購入をやめて貯蓄しませう

堅高く力強く一億の朗唱したこの誓の精神をもつて、ては必勝生活の徹底を協議しませう

まづ第一に

豚や兎の増産に努めませう

旺盛な体力を培ふと共に、敵の戦野に戦ふ将兵の防衛服や、飛行服になくはならない兎の毛皮を、どしどしと第一線に送り出すために、豚や兎の増産に努力しませう

(一) 厨芥などで豚の増産を

(イ) 豚の家庭では、お所から出る厨芥は、豚の飼料として持つてこいのもので、他の厨芥と區別し、ガラスや陶器等の危険物や、辛いもの、煙草の吸殻等を入れないやうにしておきませう

(ロ) 農村では、これらの厨芥を利用したり、その他の工夫で大いに豚を飼ひ、同時に堆肥を溜山つくりませう

(二) 大いに軍兎を飼ひませう

毛皮は軍服として兵隊に、骨は

力増強の要に、兎の価格はいまさらいふまでもありません

(イ) 仔兎は市町村農會に頼れば手に入られることになつてゐます

(ロ) 兎箱は林檎等の空箱で手軽に作れます。餌は野菜、厨芥、野草等で間に合ひ、子供でも世話ができます。飼ひ方や、販賣方法のくはしいことは、各市町村農會で指導に當つてゐます

薬工品の増産と回収

毒物を造り、輸送するにも、まづ煙がいら、吹(かきす)がいら、煙がいります。もし、これら不足りなければ、肥料や塩の配給にも、戦地の兵隊さんへの物資輸送にも、支へてくなくてはなりません。そこで



遊んでゐる農産物や、製糖のないうらに、必ず吹、煙を作ら、またこの利用のできない方は努めて原薬を供出してませう

補助貨の回収に協力を

政府は、昭和十七年十二月からアルミ貨以上の補助貨を回収して、アルミ貨や小額紙幣、または銀行券と引換へることになりました。そのうちに含まれてゐる銅やニッケルなどは軍艦、大砲、戦車、飛行機、弾丸等の貴重な資材となるからです。この際、私どもは一枚残らずこれを米英撃滅の第一線に送りませう。『誰ぞす』記念だからなどと財布の底に五厘銅貨などしまつてゐるのは

(一) 引換へられるもの

ニッケル貨、白銅貨、アルミニウム青銅貨(以上、孔あきの十銭と五銭)、銅貨、青銅貨(以上、二銭、一銭、半銭、五厘、一厘)、銀貨五十銭、二十銭、十銭、五銭、寛永通寶の二厘、一厘、文久水貨の一厘、半銭

(二) 引換への場所と方法

全国銀行本支店、出張所、信託會社、信用組合、戦時物資活用協會へすぐ直接にもつて引換へて下さい。部落會、町内會または協議では、特定日を定めて各戸から取纏めて引換への郵送をして下さい

(三) 引換へた者に対しては、その種類にかはらず、五十箇について五銭(但し五十箇未満は切捨)の引換手数料を支拂ひます



日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

一月

- 一日▽歳日祭
- 二日▽八回弾丸切手賣出
- 三日▽元始祭
- 八日▽大講奉戴日
- ▽陸軍始

兩の基地には、灼熱の太陽が照りこめて、今日も海の龍巻は只一途、米英撃滅に飛び立つてゆく。せめて椰子の木陰にそよぐ微風に、内地の冬を憶ふすがもあらうか

撮影 三枝海軍報道班員



軍用だけだったイギリスの病院車も、今では民間の急病人に転せつける



手術室では日本の優秀な技術が現地人を驚倒させている



昭南及びマラッカなどに見られる豪奢な病院も決して住民のものではなく、たゞ世界に對するイギリスの文化的な見せかけに過ぎなかつた。ところが現在はどうだろうか。凡ゆる醫療設備は實質的に現地の住民に開放され、優秀を誇る日本の醫學陣が現地の協力の下に、鐵壁の防疫態勢を築いてゐる。こゝにも大東亞戰爭の眞意が十分窺はれ、アジアは戦争と共に、また建設の進むにつれ、完全にアジア人の手に歸する日が近づいてゐるのだ

マライ新生記念巡迴診療班が街頭に運出して、住民の衛生指導に大奮

清潔な産科の病室は元氣な産聲にみちみち、アジアの未來を思はせる頼もしい風景をみせてゐる



現地に伸びる愛しい醫療の手に日本に對する信頼は深まる一方

も院病な華豪 放開へ民住

— 市南昭 —

日本の看護婦さんと現地の看護婦さんの親善風景



撮影 陸軍報道班

恩威並施 及に地奥

文 多波陸軍道班員



撮影 坪内陸軍道班員

盛装した海タイヤ族の婦人

一望千里、ジャングルに蔽はれたボルネオは、中央の脊梁山脈を除いては比較的平坦な地域が多い。大小の河川はこの中央の山系に源を發して、雄大なジャングルの水を集めつゝ、千古の謎を秘めて海にそそぐ。水量は豊富で流はゆるやかであるが、人口は至つて稀薄、猿とも人間ともつかぬ原始種族がヤトカゲや類人猿とジャングルの中で太古の生活を営んでゐると傳へられ、彼等は専らこの河川を丸木舟によつて往來してゐるといはれる。

これらの河川のうち、レジャン河は流程八百キロ、西に流れて大平原を形成し、南支那海に入る。河口デルタ地帯のジャングルは、上流山地と同様に人跡未踏の原始林である。僅かに中流地方が海タイヤ族その他の手によつて、多少ともゴム林や陸稻の畑がひらかれ、原始的な火田法のため何回か焼き拂はれて、ジャングルはキ、小さい。この中流の小都會シブは、かつてゴムのために開かれた唯一の町らしい町であるが、わが軍政部はこゝに州廳をひらいてレジャン流域の豊沃な平地開墾の足場を定めぬ。

しかしシブからカピットに至る二百三十キロの中流地帯は、ともかくも一應の村落もあり、華僑も住んでゐて、海タイヤ族の本據ながら、數百トンの船が往來し得る。しかしカピットの上述には、揚子江の三峡の險を小規模にした難所があり、丸木

と服従を誓ひ、素朴な親しみの情を示してゐたが、今や上流奥地の原住民も一切の不安を拂拭して、日本の統治を喜んでゐる。何よりも素朴純真な彼等には日本の兵隊の親しみ深い態度が好感を與へてゐる。最初、女子供は顔も見せなかつたが、一日もたぬ中にワイ、集つて来て、盛大な宴をひらいて歡待をせよと、獨得の酒や原始的な料理、さては部落よりぬきの美人(？)の踊りで將兵を面喰はせたり、彼等唯一の武器たる山刀と比較にもならぬ素晴らしい日本刀をみて垂涎三千丈、家重代の船體二十一箇を全部献上するから日本刀をくれとせがんで、皆を弱せたり、和氣藪々たる雰囲気は根柢に一つの根強い人種の共感と歴史のもつ強いつながりを思はせるものがあつた。

レジャン奥地は石炭、鐵、モリブデン、アンチモニー等々の埋藏が豊富にあるらしい。鑛石の所在、石炭の露頭をそれを探し出してゐる。カピット地帯に大發電所でも建設される日が來れば、一躍南方の大資源地として登場するであらう。海タイヤ族はじめ原住民の役割は、その果敢な闘争精神が協力の軌道において發揮される時、偉大なものとなるであらう。只現在のところ、彼等は農耕においてすら粗笨な火田法だけしか知らない。鑛山の使ひ方、水田耕作の方法も、第一、數の勘定から教へてかゝらねばならないが、彼等の能力はむしろマライ人にまさると、タイヤ青年の教育に當つてゐる人達が遺憾してゐること

は心強い事である。彼等の武器は、山刀の外には吹矢を得意とし、獵銃や竹槍も多少用ひるが、戰國時代の武士のやうに飛道具を専らとし、刀を第一の武器としてゐるのは面白い。男の入墨は特徴的で、殊に首級を擧げる毎に手指に入れる人墨は誇りのものであつたが、最早青年壯年の連中は首をとつた経験のあるものは稀である。

なほ海タイヤ族は河邊に住み、農耕を主とし、漁獵もやるが、陸タイヤ族の奥地にあるものは吹矢を得意とし、狩獵を主とする。これらの諸種族の分類は實に多種多様、同一名稱をつけてゐても風俗習慣は地方によつて異なることが多い。

レジャン流域にはオランウータンをはじめ猿の類、鰐、トカゲ、各種の蛇類が棲息してゐるが、一概にいへるやうな猛獸はゐないし、原住民は象上の通りなので、交通は甚だしく不便だが、危険は非常に少いといふのが實情である。



小鰐を捕へて大満足のタイヤ人



ピラ(カピット上流)の石炭露頭で炭塊を持つタイヤの子供



シブ町の後橋

皇軍勇士の宣撫訓示に聴き入るブラガ住民



カピットで河船よりサンハンに乗り換へる皇軍勇士

死闘を續ける將兵のあることを

血まみれた銃把を握り

血ぬられた劔をかざし

思ひをばせよう遠いソロモンの海域に

戦果に飾られたこの年もゆく日

お婆さんも入る『翼賛學校』

西荒瀬村 翼賛學校



お知らせ
本誌十二月三十日號は、大東亞戦争一周年記念特號を倍大號として發行致しましたので臨時休刊とし、一月六日號を新年號として新年早々より發賣の豫定です

山形縣西荒瀬村に「翼賛學校」が生まれました。これはもう何十年も敵軍や機嫌の味を忘れてあるお婆さんお父さんたちのために毎月一回、主として農閑期に昔懐かしい學校生活を再現して時局に處する村民に實質の道しるべを與へようとするもので、このほど八學級三百五十名を編成して、村の理事者や國民學校の先生や地方事務所役員を講師に、第一回の講座が開かれました



★表紙
らんぐと燃える兵のまなこ。息をひそめてザリクと敵トチカに肉迫する兵の気魄は烈火となつて放射されるのだ。肉弾となつて敵艦を奪取する前、一瞬の緊迫した静けさ。一草を拵がす風さへも遠絶えた
十二月六日大東亞戦争一周年記念行事の一つとして東京多摩川畔に展開された近衛師團實施の『近代立機攻防演習』より



復習室

- 本誌からあなたは何を學んでせうか?
1 一月の常會議案事項のうち國民學校の生徒たちにも是非やうつていただきたい事が二つあります。何々でせう。(16頁)
2 藤々たる敵機に互るわが海軍のうち八月七日及び十一月三十日に行はれた歴史的な海戦は何んと呼称されてゐますか。(11頁)
3 ホルネオのレジオン地には豊富な埋藏資源が貯蔵されてゐます。どんなものが出てきそうですか。石油。銅。ニッケル。石炭。鉛。鋳鉄。モリブデン。金。アンチモニー。マンガン。(20頁)
4 アメリカが企図する最も代表的と考へられる日本空軍機務四つを擧げて下さい。(12頁)
5 アルミ以外の補助貨の同族がはられてゐますが、私の家には實永通寶の二兩銀や、文久永寶の半匁玉が澤山あります。これは引換に差し出さなくてもよいでせうか。(18頁)
6 ガルナウル島附近で海軍を擧行してゐるわが軍は、海軍だけ。陸軍だけ。海陸軍軍。それと、それと代る所らしい名前は、マラーカ。マラーカ。マラーカ。(18頁)
7 マラーカといふ地名は屬せざりましたが、それに代る所らしい名前は、マラーカ。マラーカ。マラーカ。(18頁)
8 南太平洋海戦でわが海軍が撃沈したアメリカ空母は、ワースプ。レンジャー。ホーネット。(19頁)
9 ホルネオ原住民の農耕方法は、水田耕作。大田法による耕作。畑地耕作。(20頁)
10 米國がガルナウル島を死守するわけは、結局が金塊だから。これを奪取されると本土の空襲を受けるから。南洋が孤立し、對日總反抗の一角が崩れるから。太平洋上における唯一の航空基地だから。(11頁)
一聞十駁としてあなたは何點でしたか?

「時立の札」は、へ雑誌の他にも利用下さい



貯蓄は
兵器だ

東海銀行

本店・名古屋

寫眞週報

(禁轉載)

昭和十七年十二月

廿三日 印刷發行

編輯者

情報局

東京市麹町區

永田町一ノ

一

印刷局

東京市豊島區

大塚

印刷局

内閣印刷局

東京市豊島區

大塚

印刷局

東京市豊島區

大塚

印刷局

東京市豊島區

大塚

印刷局

東京市豊島區

大塚

印刷局

東京市豊島區

大塚

印刷局

東京市豊島區

大塚

印刷局

東京市豊島區

大塚

印刷局

東京市豊島區

大塚

印刷局

本誌を戦地にお送りになる場合には送料は内地と同様で封あるは開封にして第三種と明記すれば、一部一錢です

所 達 申	價 定
全國各地官報	一部一錢
販賣所	送料一錢
書店・發賣店	外國郵送に依る地域は送料共一部十九錢
新聞販賣店	▲豫約配達希望の方は一部十錢(送料一錢)の割合を以て前金を添へ御申込み下さい
寫真材料店	▲特大號の場合は其の都度御申込金より差額を申受けます

(刊行雑誌)-A4標準定価は23大の書本